

第3次東近江市環境基本計画

【概要版】

森里川湖の恵みを共に育み未来へつなぎ、
質の高い暮らしを実感できる循環共生のまち



令和8（2026）年3月

■東近江市環境基本計画とは

東近江市環境基本計画は、平成18年(2006年)に制定された「東近江市民の豊かな環境と風土づくり条例」に基づき、良好な環境の保全に関する施策を、総合的かつ計画的に推進するための計画です。

市民・事業者・行政が共通の目標を持ち、それぞれの役割のもとで連携して取り組むための指針となるものです。本計画は、第3次東近江市環境基本計画として、計画期間を令和8年度(2026年度)から令和17年度(2035年度)までの10年間とし、社会情勢や環境の変化を踏まえながら、必要に応じて点検・見直しを行います。

■計画策定のポイント

① 脱炭素社会、循環経済、自然再興の同時達成

本市では、カーボンニュートラルの実現に向けた「脱炭素」、廃棄物削減と資源循環を図る「循環経済」、そして生物多様性の回復を目指す「ネイチャーポジティブ(自然再興)」を統合的に推進します。これらを同時に達成する仕組みとして、本計画内に「東近江市生物多様性地域戦略」を包含し、自然資本の保全と持続可能な利用を具体化します。

② 自然資本を基軸とした環境・経済・社会の統合的向上の実現

持続可能な社会の構築には、環境保全と経済・社会の発展を一体的に進めることが不可欠です。グリーン成長やネイチャーポジティブ経済の考えに基づき、地域レベルでの具体的な施策を展開することで、自然資本を基軸とした「環境・経済・社会」の統合的向上を目指します。

③ 森里川湖を基盤とした地域資源の活用による事業創出と暮らしの質の向上

地域資源をいかした持続可能な事業創出により、地域経済の活性化と市民の暮らしの質の向上、さらに観光資源としての魅力向上を同時に実現します。

④ 次世代への継承

次世代に持続可能な地域を引き継ぐため、教育や啓発を通じて環境意識の高い市民を育むとともに、若者が積極的に地域活動へ参加できる仕組みを構築します。

■目指す将来像

森里川湖の恵みを共に育み未来へつなぎ、質の高い暮らしを実感できる循環共生のまち

本市は、気候変動や人口減少等の深刻な危機に対し、環境・経済・社会を統合した多面的な施策で持続可能な社会を構築します。森里川湖の豊かな恵みを守り育て、地域資源の機能を最大限に活用することで、市民が豊かに暮らせるまちづくりを推進します。

カーボンニュートラルとネイチャーポジティブを両立させ、気候変動にも適応した自然豊かで安全安心な環境を次世代へ継承します。また、琵琶湖集水域の自然資本の守り手として、市外の資金や人材を呼び込む循環共生型の仕組みを構築し、自然と調和した質の高い暮らしを実感できる持続可能なまちを実現します。

■基本方針

本市は、豊かな自然(森・里・川・湖)や歴史・文化といった多種多様な地域資源を大切に、「目指す将来像」の実現のため、「いかす」「まもる」「つなぐ」の3つを基本方針として、持続可能なまちづくりを推進していきます。

【いかす】 地域資源を活用した豊かな暮らしの創出

私たちの暮らしの基盤である「森里川湖」の恵みを持続可能な形で活用します。人口減少や気候変動、エネルギー問題などの課題に対し、地域資源を有効にいかすことで、地域の持続的な発展を図ります。

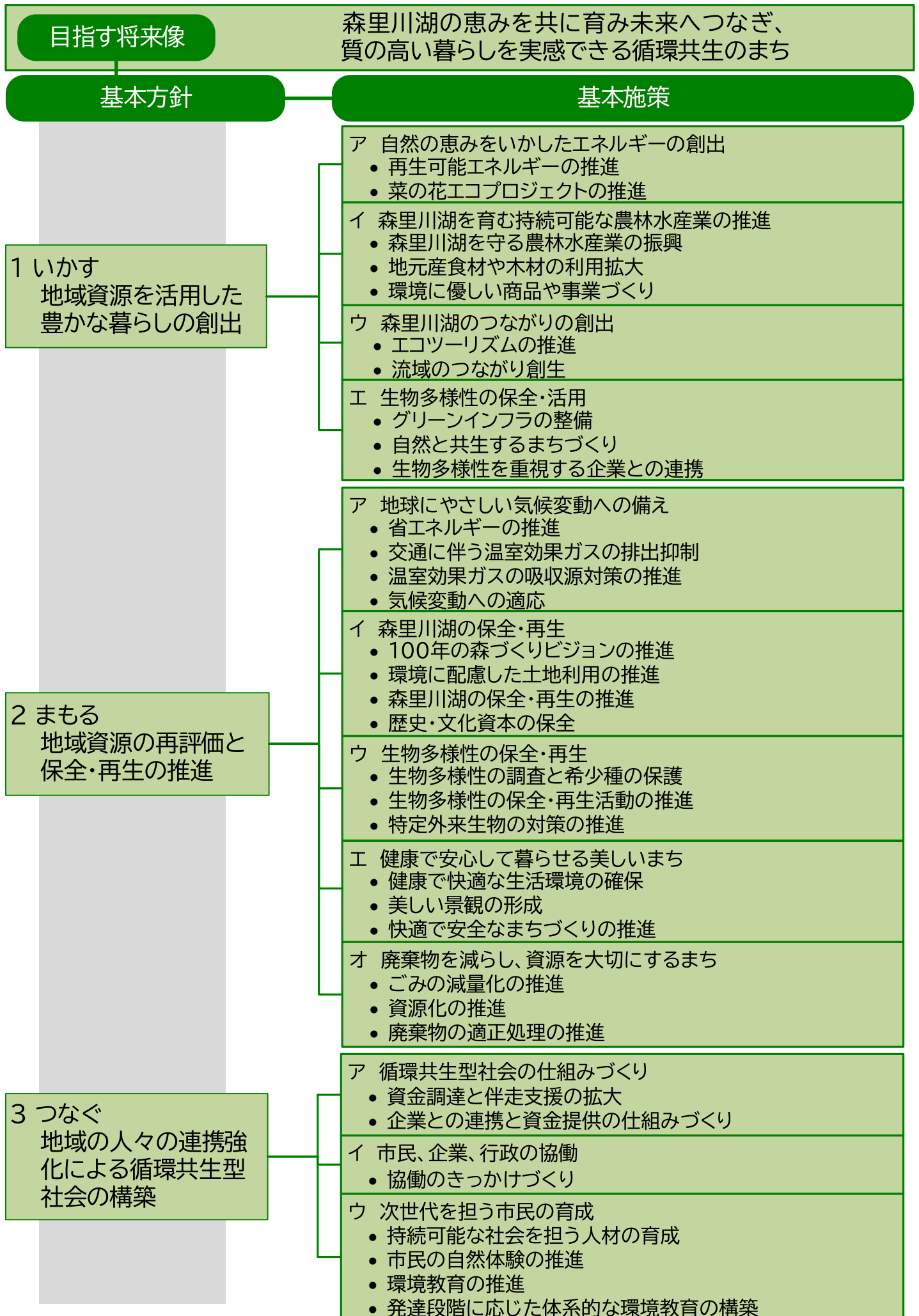
【まもる】 地域資源の再評価と保全・再生の推進

暮らしに欠かせない地域資源を保全・再生し、次世代へ引き継ぎます。気候変動や環境リスク、資源の管理不足といった課題に対応し、100年の森づくりや資源循環を通じて、持続可能な地域社会を構築します。

【つなぐ】 地域の人々の連携強化による循環共生型社会の構築

持続可能な社会を支えるため、市民・事業者・行政が連携する仕組みをつくります。地域資源を活用した協働の場づくりや、次世代を担う人材育成を進め、地域内外の力を結集して社会の基盤を形成します。

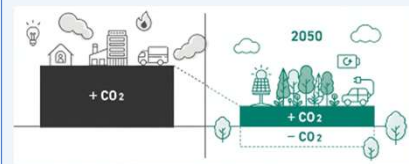
施策(取組)の体系



カーボンニュートラル社会の実現に向けて

カーボンニュートラルとは

人間活動による温室効果ガスの排出量と、森林による吸収量や除去技術による吸収量を差し引きして、実質ゼロにすることです。これは地球温暖化を防ぐことを目指すもので、世界的に重要な目標とされています。



省エネ行動やライフスタイルの転換、産業活動の改善、再生可能エネルギーの導入を一体的に進め、

2035年度にはエネルギー消費量を2013年度比で56%削減します。

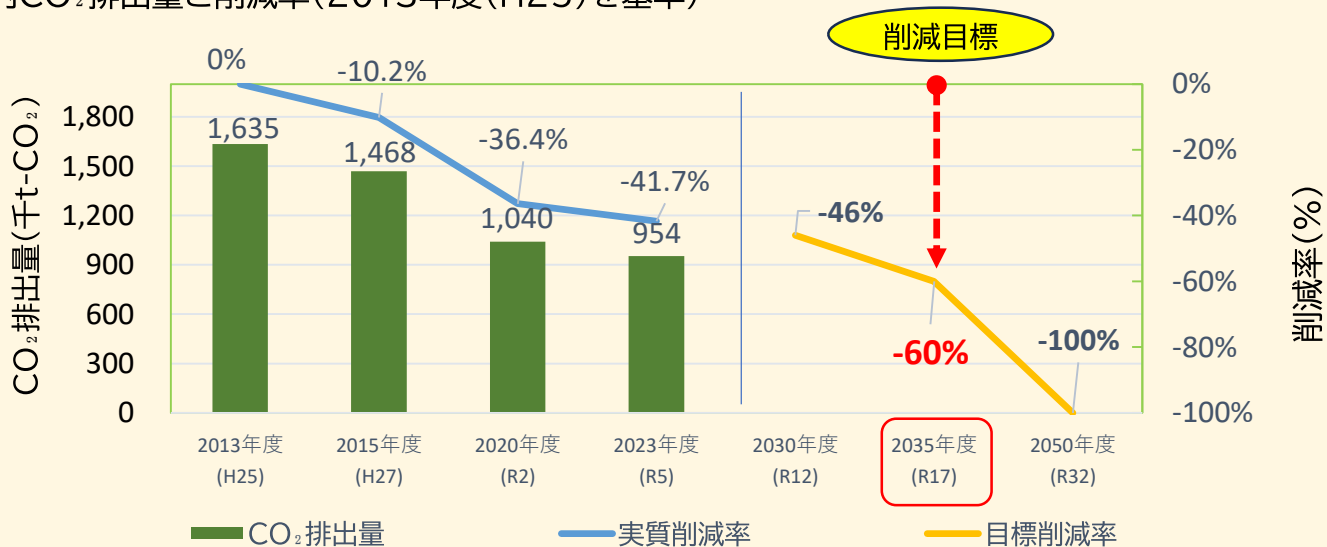
再生可能エネルギーは、生物多様性や景観に配慮しつつ、森林・農地・水辺との調和を図りながら導入します。



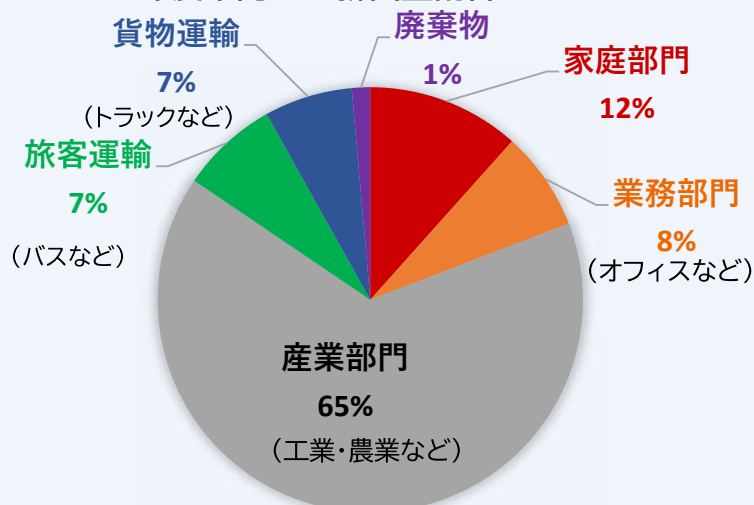
東近江市の面積の56%を占める豊かな森。この森をしっかり手入れすることで、市全体の排出量の**約4%**にあたるCO₂を吸収させ、実質的なカーボンニュートラルの達成を力強く後押しします。

森林吸収量の**4%**を組み合わせることで、総量として**実質60%削減**

市内CO₂排出量と削減率(2013年度(H25)を基準)



2035年度市内CO₂排出量割合



暮らし方や働き方の転換、設備の効率化によってCO₂排出量の大きな削減効果を生みます。

カーボンニュートラル×ネイチャーポジティブ
同時達成による相乗効果

【吸収力の強化】

適切に手入れされた森林は、CO₂を吸収し、同時に多様な生きものを育みます。

【地域の守り】

豊かな山林や水辺を再生させることは、災害に強いまちづくり(防災・減災)につながり、気候変動への適応力を高めます。

【新しい価値の創造】

「魚のゆりかご水田米」や地元の木材など、環境に配慮した商品はブランド価値が高まり、地域経済の活性化につながります。

●目標

東近江市は、国の地球温暖化対策計画を踏まえ、地域の自然と人々の営みをいかした地域完結型の取組において、2035年度までに2013年度比で市内CO₂排出量を**実質60%削減**することを目指します。

特に、森林によるCO₂吸収量(約5.7万t-CO₂/年)を最大限活用することが本市の特徴です。

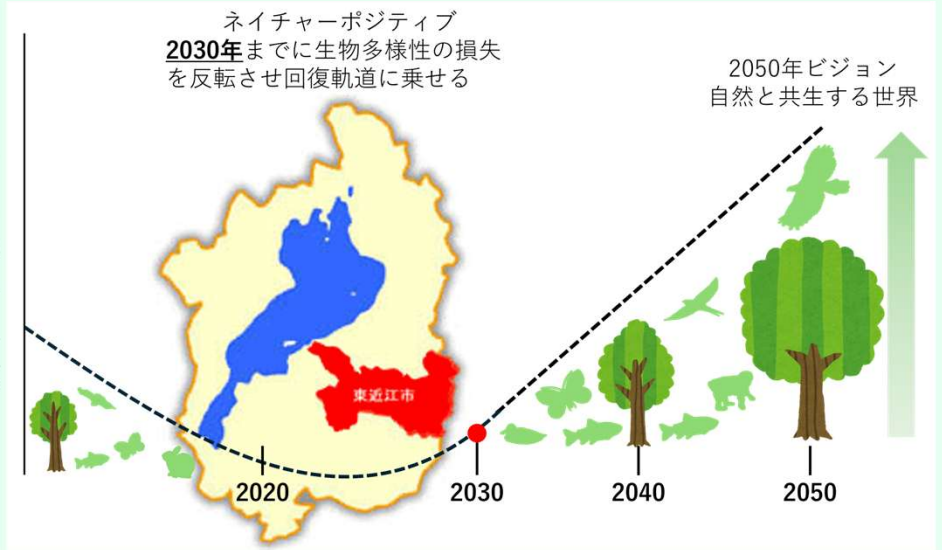
ネイチャーポジティブの実現に向けて

ネイチャーポジティブとは

ネイチャーポジティブとは、生物多様性の損失を食い止め、回復軌道に乗せるという世界共通の目標です。その具体的な戦略の一つに、2030年までに陸と海の30%以上を保全する「30by30(サーティ・バイ・サーティ)」があります。

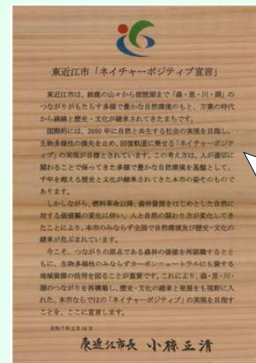
東近江市では、市域の約37%が自然公園などの保護地域となっています。世界目標である30%を現時点で達成しており、全国でも有数の豊かな自然資本を誇ります。

生物多様性の指標



東近江市は、森・里・川・湖が連なり、人の営みとともに育まれてきた二次的自然を数多く有する地域です。

本市では、人と自然の関わりを大切にしながら自然の価値を高め、回復と再生につなげる取組(ネイチャーポジティブ)を進めています。人と自然の関わりを深めることで、生物多様性の回復と向上を図ります。



2025年2月に「ネイチャーポジティブ宣言」を表明しています。

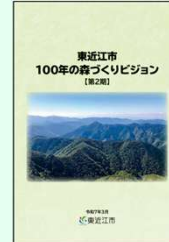
■自然と共に学び、楽しみ、まもる

100年の森づくり

100年先を見据え、おおむね10年先を目指した森林づくりのあるべき姿として、「東近江市100年の森づくりビジョン」を策定し、各種施策に取り組んでいます。

また、集落の森林所有者が主体となってワークショップを行い、地域ごとの「100年の森づくりビジョン」の策定も進めています。

市・県・森林組合がこれを支援し、間伐・植林等の計画的な森林整備を進め、持続可能な森林経営と次世代への継承につなげています。



ワークショップ

エコツーリズム

鈴鹿山脈・愛知川・琵琶湖などの豊かな自然資源と地域に根付く歴史・文化の継承を目的として設立された協議会の会員が中心となって活動しています。

「東近江市エコツーリズム推進全体構想」は国の認定を受け、登山道・ビジターセンターの整備、ガイド養成、エコツアー認定、エコツアーの開催を通じて、観光振興と環境保全の両立を図っています。



東近江市エコツーリズム推進協議会

里山保育

5歳児クラスを対象



身近な自然体験を提供

外来種対応

駆除の推進と啓発



アライグマ



オオバナミズキンバイ



オオキンケイギク



ナガエツルノゲイトウ

自然を守り、育て、未来へつなぐ

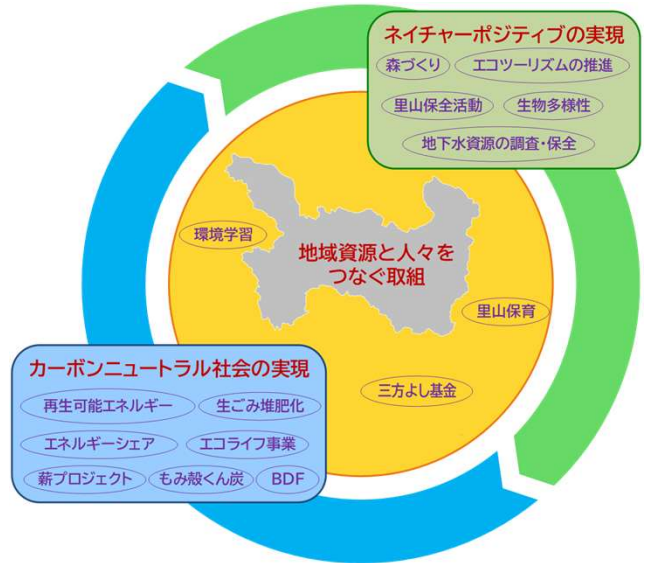
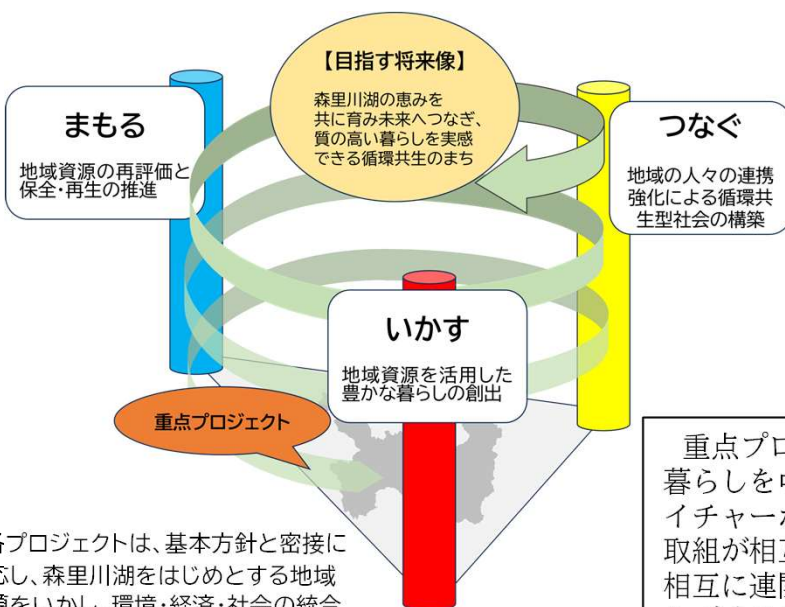
東近江市のネイチャーポジティブの実現に向けた取組は、自然を保全するだけでなく、人の関わりによって自然の価値を高め、回復させ、未来につなぐ取組です。

重点プロジェクト

将来像の実現に向け、緊急性・重要性が高く、本市の地域特性をいかした取組を「重点プロジェクト」として位置づけ、集中的に推進します。9つの重点プロジェクトは、基本方針と対応しながら、2050年のカーボンニュートラルとネイチャーポジティブの同時達成を目指すとともに、森里川湖をはじめとする地域資源をいかし、環境・経済・社会の統合的向上を図る、本市の環境政策の柱となるものです。

<p>(1) 再生可能エネルギー推進プロジェクト</p> <p>太陽光・小水力・バイオマスで築く地産地消エネルギー</p> <p>太陽光・小水力・風力・バイオマスにより、地域の電気と熱を創出します。公共施設や家庭での太陽光発電＋蓄電池の普及や、BDF・バイオマスを推進し、「つくる・ためる・分け合う」仕組みにより脱炭素・地域経済循環を高めます。</p>	<p>(6) 生物多様性保全・再生プロジェクト</p> <p>森里川湖の命を未来へつなぐ保全と再生</p> <p>森林・水辺・里地里山を「地域の自然資本」と捉え、GISや環境DNAを活用した現状把握に基づき、外来種対策や学びの場づくりを推進します。また、「自然共生サイト」の活用や新規認定を並行して進め、市民・事業者とともに“守る担い手”を増やします。</p>
<p>(2) 地域特性をいかした自給圏づくりプロジェクト</p> <p>食・エネルギー・ケアの地産地消と循環</p> <p>もみ殻・間伐材・廃食油などの地域資源を循環的に活用し、菜の花エコプロジェクト(BDF・くん炭)や薪プロジェクトを軸に、福祉・教育・就労と連携。暮らしの場で資源が回る仕組みを広げ、地域の自給力を高めます。</p>	<p>(7) 水循環保全プロジェクト</p> <p>森里川湖の命を未来へつなぐ保全と再生</p> <p>上流域での河床の土砂堆積や中流域の長期的な瀬切れや濁水、下流域の浜崖など、多様な課題に対し、流域単位での水循環の実態把握と調査・分析を進めるとともに、水源かん養や水質保全対策にも取り組みます。</p>
<p>(3) 森里川湖エコツアープロジェクト</p> <p>森里川湖の自然と文化を体感し守る体験型観光</p> <p>森・里・川・湖の自然と文化を、保全しながら体験できるツアーを磨き上げます。自然観察・川遊び・農業体験等を通じて、学びと楽しさが保全につながる、持続可能な観光モデルを構築します。</p>	<p>(8) 三方よし森里川湖インパクトファンドプロジェクト</p> <p>環境価値を未来へつなぐ成果連動型の資金循環</p> <p>自然を守る活動や環境分野の事業に、成果に応じた支援が届く仕組みを整備します。助成・投資・寄附等を組み合わせた資金循環を創出し、ネイチャーポジティブ・カーボンニュートラル・サーキュラーエコノミーに取り組む人材と資金を呼び込みます。</p>
<p>(4) 100年の森づくりプロジェクト</p> <p>森林を守り育ていかす100年先への取組</p> <p>地域単位で方針づくりとゾーニングを進め、森林整備を計画的に推進します。市内産木材利用や木育、CO₂吸収量など多様な主体が関わる森づくりを進めます。</p>	<p>(9) 次世代人材育成プロジェクト</p> <p>森里川湖を未来へつなぐ次世代を育む</p> <p>自然体験・環境学習を多様な主体が連携して展開し、森里川湖の未来を担う人材を育てます。学びを体系化し、地域プロジェクトへの参画を促進します。</p>
<p>(5) 資源循環推進プロジェクト</p> <p>ごみ減量と再資源化で築く地域ぐるみの資源循環</p> <p>生ごみのたい肥化、食品ロス削減、リユース・リサイクルの実践を家庭・地域で進めます。分別・回収、学習・啓発、リユースイベント等を組み合わせ、日常の行動変容を促し、循環型社会の形成に寄与します。</p>	

生ごみのたい肥化、食品ロス削減、リユース・リサイクルの実践を家庭・地域で進めます。分別・回収、学習・啓発、リユースイベント等を組み合わせ、日常の行動変容を促し、循環型社会の形成に寄与します。

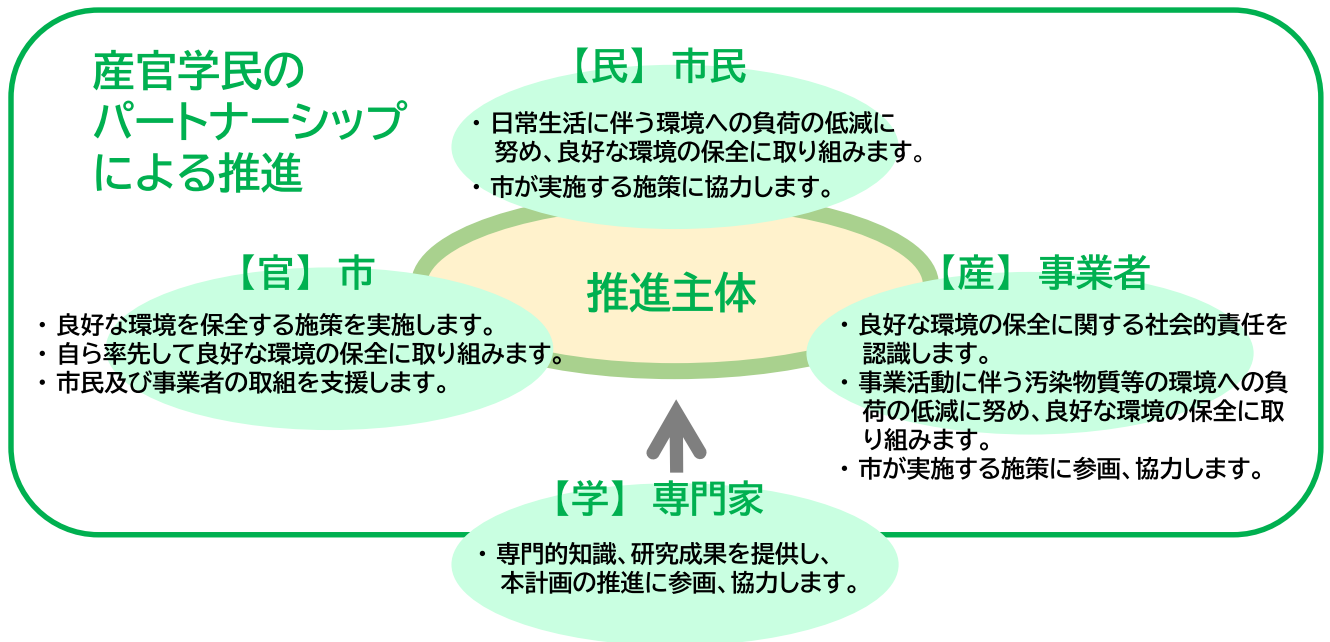


重点プロジェクトは、個別に進むものではなく、人々の暮らしを中心に「カーボンニュートラル社会」及び「ネイチャーポジティブ」の同時達成を目指し、それぞれの取組が相互に連携しながら循環的に展開していきます。相互に関連しながら、環境・経済・社会が好循環するまちづくりを支えるものです。

各プロジェクトは、基本方針と密接に対応し、森里川湖をはじめとする地域資源をいかし、環境・経済・社会の統合的向上を図る環境政策の柱です。

■計画を推進する主体

東近江市環境基本計画は、市内で生活や事業を営む市民・事業者・行政が連携して推進します。それぞれが以下の役割を担い、産官学民のパートナーシップのもと、互いの能力・役割・責任を確認し合いながら、協働して取り組むことが重要です。



■計画を着実に推進していくために

本計画の運用に当たっては、東近江市環境基本計画推進会議の場において、市民・事業者・行政の連携による具体的な活動の進捗管理や評価を行い、日々変化する社会情勢や技術革新を捉えながら、施策をより効果的な内容へと柔軟に磨き上げていくことで、計画の確実な推進を図ります。

東近江市環境基本計画推進会議

市民・事業者・行政・専門家等で構成する「東近江市環境基本計画推進会議」を設置し、将来にわたって持続可能な施策が展開できるよう、進捗管理及び普及啓発を実施します。

【構成】

市民・事業者・行政・専門家・環境保全団体・農林水産業者 など

【進捗管理】

取組実績の収集・整理
環境・経済・社会面での評価
環境基本計画の進捗管理

【普及啓発】

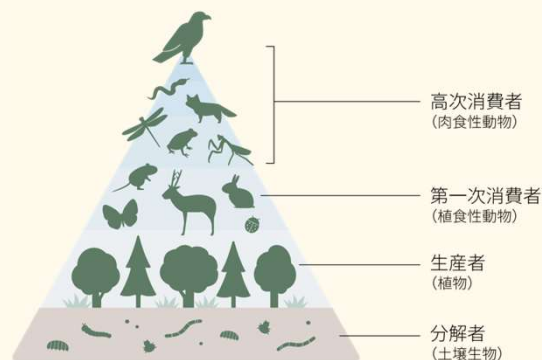
市民フォーラム開催
普及啓発活動 など

東近江市生物多様性地域戦略

■生物多様性地域戦略とは

「生物多様性基本法(第13条)」に基づき、市町村が策定する法定計画です。国(国家戦略)や滋賀県(県戦略)の方向性を受けつつ、地域特性(地形、気候、文化)に合わせた「自然との共生」の具体的な道筋を定めるものです。

東近江市は、鈴鹿山脈から琵琶湖へ続く「森里川湖」のつながりの中で、自然と人の暮らしが長く支え合い、多様な生きものと文化を育んできました。一方で近年、管理の担い手不足、外来種の侵入、気候変動などにより、自然の豊かさが徐々に失われつつあります。この土地らしい豊かな自然と暮らしや文化を未来へ受け継ぐため、本戦略を第3次東近江市環境基本計画内に策定しました。



森林生態系ピラミッド

■現状と課題

●「つながり」の分断と生息環境の悪化

鈴鹿山脈から愛知川、そして琵琶湖へと続く「水と緑のネットワーク」が分断されつつあります。

●人の手が入らなくなった自然

かつては農業や林業などを通じて維持されていた農地や里山が、管理の担い手不足や環境変化により、景観や生態系が劣化しています。

●外来種による生態系のかく乱

海外や他地域から持ち込まれた生きものが、地域の生態系を脅かしています。

■本市を象徴する生物

イヌワシ・クマタカ・ビワマス・ニゴロブナ・ホンモロコ・アユ・イワナ・カワバタモロコなどは、生態系の健全性を示す指標種であり、これらが暮らせる環境づくりが重要です。



イヌワシ



クマタカ



ビワマス



ニゴロブナ



ホンモロコ



アユ



イワナ (ヤマトイワナ)



カワバタモロコ

目指す姿(将来像)と取組方針

■長期将来像

森里川湖の恵みを未来へつなぎ、自然と人が調和し、環境・経済・社会が好循環する循環共生社会を実現するまち

■取組方針

まもる

生態系ネットワークの再生・維持、保護地域やOEKMの質の向上、外来種対策、植生回復、モニタリング強化などに取り組みます。

いかす

森林・農地・水辺の資源や自然の恵みを地域の産業・文化・交流にいかし、保全と活用が循環する地域づくりを進めます。

つなぐ

市民・事業者・研究機関等の協働、学び・体験の機会づくりを進め、資金循環と伴走支援により保全・活用に取り組む地域活動の持続性を高めます。

発行:東近江市環境部森と水政策課

〒527-0023 滋賀県東近江市八日市緑町10-5

電話 0748-24-5524 FAX 0748-24-5692

ウェブサイト: <https://www.city.higashiomi.shiga.jp/>